Ⅰ 少年のみた夢

1

2

3

4

Ⅱ 版画家として、教師として

5

6

7

時催

FURUKAWA RYUSEI

古川龍生展

8

9

栃木県下都賀郡桑村大字羽川(現 小山市羽川)に生まれた古川龍生(本名 龍夫、1893-1968)は、10代の頃から独学で版画に取り組みました。東京美術学校卒業後は教師として働きつつ、日本創作版画協会や春陽会に出品します。病や戦争による中断はありましたが、最晩年まで彫刻刀を握り、洒脱な線と繊細な色彩をかさねた木版画で詩情豊かな世界を創り出しました。生涯で制作した木版画はおよそ400点足らず。版画業で生計を立てることなく、独自の表現を追い求めた作品は、知る人ぞ知るものとなっています。没後50年にあたって、栃木県立美術館所蔵品からえりすぐった木版画約70点と画文集、スケッチ帖、習作などの資料を展示し、孤高の木版画家・古川龍生を回顧します。

Ⅲ 病と戦争と故郷

10

11

12

13

14

Ⅳ 記憶の風景

15

16

17

18

1.《村の学校》1927年　2.《紫蘇》1927年　3.《訪客図》1927年　4.《麦》1927年　5.《昆虫戯画巻 新生篇 乱酔泥喜》1933年　6.《紅き卓上の草花》1933年　7.《蟻郷》1935年
8.《卓上草花》1931年　9.《美人四季（春）》1932年　10.《楽しき日曜日》1958年　11.《老農》1954年　12.《パイプとポーチ》1956年　13.《下野の女》1944年　14.《富士遠望》1944年
15.《夏の砂浜》1966年　16.《真夏の海辺》1967年　17.《昼の街B》1962年　18.《街》1960年　すべて栃木県立美術館蔵